

ニッポン

ドクター和の



臨終凶巻

戦前生まれの政治家がまた一人
旗立ちました。第80代首相・羽田
孜氏。まもなく戦争を知らない人
だらけの国会になると思うと一抹
の不安を覚えます。

首相在任期間は64日間。現憲法
下の内閣では最も短命政権だった
ことから、当時推奨していた半袖
スーツの省エネルギーと相まっ
て、「袖も任期も短かっ
た」と揶揄(やめ)され
ていました。

しかし、その後も小沢
一郎氏と新進党を結成。
小沢氏と対立後には太陽
党へ、さらには民政党を
経て民主党の結成など

21 羽田孜

長尾和宏(ながお・かず
ひろ) 医学博士。東京医
大卒業後、大阪大第二内科
入局。1995年、兵庫県尼崎
市で長尾クリニックを開
業。外来診療から在宅医療
まで「人を診る」総合診療
を目指す。近著「葉のやめ
どき」「痛くない死に方」
はいずれもベストセラー。
関西国際大学客員教授。

990年代の政治のうねりの中で
先陣を切って走っていたイメージ
があります。名前の孜は「孜々
(しし)として働く」から取った
そうで、政治手腕の評価は分か
れるところですが、名前に負けない
働き者だった印象があります。
また、政治家の世襲は認めない



とし、息子を後継者にしなかった
ことは立派です。今、この国は政
治家も医者も二世、三世だらけ。
全否定はしません、頼りない人
間が増えているのは事実です。
そんな羽田氏に異変が起きたの
は2007年ごろ。しゃべり方や
歩き方が遅くなり、脳梗塞と噂さ
れていました。12年に政界を引
退。多発性脳梗塞の治療に専念し
ます。もしかすると脳梗塞に引き
続いて起きた脳血管性認知症も発
症していたのかも知れません。
そして引退から5年が経過した
今年8月28日、82歳で亡くなりま
した。死因は老衰。「82歳で老衰
なんて、早くな
いですか？」と
いう質問が、私
のところにもい
くつか寄せられ
ました。

老衰には明確
な定義はありま
せん。老衰の医
学的研究はまだ
始まったばかり

であり、一般的には平均寿命を明
らかに上回った人にこの言葉を使
うものだと考えています。羽田氏
も日本人男性の平均寿命80歳を超
えての旅立ちですから、老衰であ
っても、ちょっともおかしくありま
せん。自宅で亡くなったとの報道
でしたので、おそらく在宅医が看
取ったのでしょう。

多くの在宅医は「死」診断書に
「老衰」と書くことに抵抗があり
ません。しかし、もし病院であれ
ばそうは書かれなかったはず。病
院は病気を「治す」場所、死は
「敗北」と捉えるため、何らかの
病名が必要と考える医師が多いの
です。

大病や事故に遭わなければ、人
生の長さは皆同じくらいであると
考える人も多いようですが、与え
られた寿命というのは、その人に
よって違うと思います。時間は絶
対的尺度ですが、過ぎ去る速
度はその人によって違うのではな
いでしょうか。

私自身、医師を目指す決めて
からもう40年も生き急ぎすぎまし
た。60代で力尽きて死ぬかもしれ
ないなと想像することもありますが
(嫌ですが...)。その時、死亡診
断書には「老衰」と堂々と書いて
ほしいと願っています。

働き者に学ぶ老衰の定義